

I 城下町の歴史

①地図・古写真でみる城下町

城下町の建設と発展

1607(慶長12)年、堀尾吉晴らは、松江城下町の建設に着手した。松江大橋の架橋、城下町の造成、道路整備、松江城の建造などを進め、わずか5年の歳月を経て、城下町が誕生した。



「堀尾期 松江城下町絵図」

(1620～1633年頃作製、島根大学附属図書館)

城下町の入口付近には、戦時に兵力を駐屯しやすいように、千手院(せんじゅいん)や桐岳寺(とうかくじ)などの寺が配置された。



「松平期 松江城下町絵図」

(1825～1851年頃作製、島根大学附属図書館)

島根大学旧奥谷宿舎近辺の奥谷町や石橋町は、18世紀半ば頃整備された。また普門院の南側も新たに堀が貫通している。

👉 関連リーフレット: ②「江戸時代の天神町」

明治時代の水都



(日八十月五年四和昭) 景光ノ式幸神社神荷稻山城 江松

昭和4年のホーランエンヤの様子
(写真提供: 今岡額縁店)



小泉八雲が渡った第15代大橋
(写真提供: 今岡額縁店)

水都・松江にはたくさんの水路と橋があり、それぞれ水運・陸運の重要な交通路であった。

なかでも松江大橋は、大橋川を挟んで南北に分かれる松江にとって、物資を運ぶために、なくてはならない存在である。

堀尾吉晴によって整備された松江大橋は、約20年程度のスパンで改架された。

現在も現役の、第17代松江大橋は、春日灯籠や桜御影石を使った欄干など、景観に配慮した名橋として市民に愛されている。水の都・松江の象徴である。

👉 関連リーフレット: ①「松江大橋」



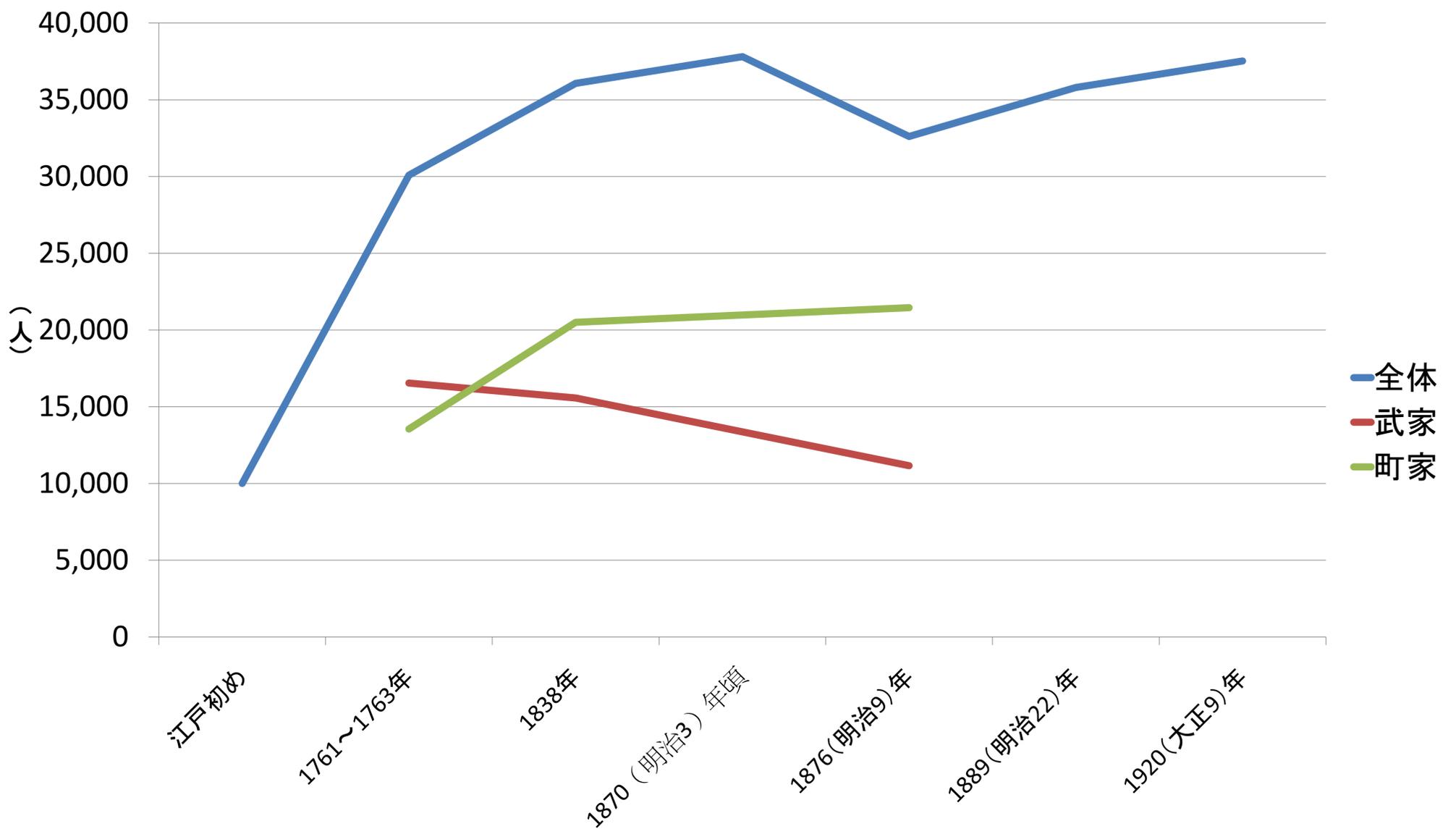
現在も現役の第17代大橋(昭和12年完成)
(写真提供: 今岡額縁店)

I 城下町の歴史

②松江の人口

時期	全体人口	武家人口	町家人口
江戸時代初め	約10,000人		
1761(宝暦11)年 1763(宝暦13)年	30,086人	16,541人	13,545人
1838(天保9)年	36,073人	15,567人	20,506人
1870(明治3)年頃	37,808人		
1876(明治9)年	32,612人	11,157人	21,455人
1889(明治22)年	35,804人		
1920(大正9)年	37,527人		

松江の人口の推移



400年前の開府当初、松江城下の人口は、約10,000人程度と推定されている。江戸時代後半に入ると、城下人口はその倍以上の3万人に達する。

18世紀後半から19世紀前半にかけて、武家と町家の人口は逆転する。藩や武士が経済的に困窮する一方、商業は発展していったことを反映したものと考えられる。

明治時代にはいると士族は職を失い、武家人口はさらに減少した。その後、商工業の振興によって全体の人口は次第に増加し、大正時代には、明治初期の人口まで回復した。

 関連リーフレット: ⑫「城下町松江の人口」